



2025年2月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2025年1月10日

上場会社名 株式会社チヨダ 上場取引所 東
コード番号 8185 URL <http://www.chiyodagrp.co.jp>
代表者 (役職名) 取締役社長 (氏名) 町野 雅俊
問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長 (氏名) 井上 裕一郎 TEL 03-5335-4134
配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無：無
決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2025年2月期第3四半期の連結業績（2024年3月1日～2024年11月30日）

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年2月期第3四半期	72,620	2.2	2,382	39.1	2,668	31.7	2,243	14.4
2024年2月期第3四半期	71,035	3.0	1,712	—	2,025	—	1,960	—

(注) 包括利益 2025年2月期第3四半期 1,911百万円 (10.6%) 2024年2月期第3四半期 1,727百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2025年2月期第3四半期	63.77	63.76
2024年2月期第3四半期	55.81	55.64

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2025年2月期第3四半期	81,113	51,490	63.5	1,463.18
2024年2月期	84,762	51,853	59.9	1,444.31

(参考) 自己資本 2025年2月期第3四半期 51,490百万円 2024年2月期 50,781百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年2月期	—	14.00	—	14.00	28.00
2025年2月期	—	17.00	—	—	—
2025年2月期（予想）	—	—	—	17.00	34.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2025年2月期の連結業績予想（2024年3月1日～2025年2月28日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	円 銭
通期	92,237	△1.2	1,876	75.1	2,299	55.9	1,631	△11.9

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：有

新規 ー社 (社名) ー、除外 1社 (社名) 株式会社マックハウス

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2025年2月期3Q	38,609,996株	2024年2月期	38,609,996株
② 期末自己株式数	2025年2月期3Q	3,418,945株	2024年2月期	3,450,098株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2025年2月期3Q	35,178,485株	2024年2月期3Q	35,134,360株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(参考) 個別業績予想
2025年2月期の個別業績予想(2024年3月1日～2025年2月28日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	80,573	4.5	3,058	72.2	1,618	△4.2	44.68

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	9
(会計方針の変更)	9
(四半期連結貸借対照表に関する注記)	9
(四半期連結損益計算書に関する注記)	9
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	9
(セグメント情報等の注記)	10
(企業結合等関係)	11
3. 補足情報	12
(1) 個別経営成績（累計）	12
(2) 個別財政状態	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、経済活動の正常化が進むなか、一部で足踏みが残るものの、雇用・所得環境の改善、個人消費の回復やインバウンド需要の増加が見られるなど、緩やかな回復傾向となりました。しかしながら、原材料・エネルギー価格の高騰や円安による物価上昇、海外景気の下振れリスク等、依然として先行き不透明な状況が続いております。当社グループが属する靴・衣料品小売業界では、社会行事の再開や外出機会の増加による需要の伸びが見られる一方、継続的な物価上昇や、実質賃金の伸び悩み等の影響による消費者マインドの低下が懸念されております。このような環境下、当社グループは、専門店ならではの視点で便利さを追求し、快適な生活を支援するプライベートブランド商品の開発、提案を行ってまいりました。また、広告手法の見直しと効率化を図ることで売上拡大と経費削減に努め、厳選した出退店戦略、標準化による作業軽減等効率化に取り組むことで、利益確保に努めてまいりました。更に、実店舗以外の販売チャネル拡大のため、EC事業や卸売を含めた法人事業の強化を行い、安定した収益源の確保に努めてまいりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高72,620百万円（前年同期比2.2%増）、営業利益2,382百万円（同39.1%増）、経常利益2,668百万円（同31.7%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益2,243百万円（同14.4%増）となりました。

セグメント別の業績の概要は次のとおりであります。

<靴事業>

靴事業におきましては、単体の中期経営計画「Change（チェンジ）」を基に、「プライベートブランド（PB）商品の拡大」「店舗・業態別戦略」「デジタル販促強化とOMOの更なる推進」「販売チャネルの拡大」「業務効率の改善」「サステナビリティ経営の実践」等の施策を推進し、更なる業績拡大と、靴専門店としてのサービス向上に努めてまいりました。

商品面では、手を使わずに立ったまま履けるハンズフリーシューズの代表格ブランド「スパットシューズ」が、当初計画を大幅に上回って好調に推移し、年間販売数150万足を目指すほどの大ヒット商品へと成長しました。インフルエンサーとのコラボ商品や、プライベートブランド「バイオフィッター」からスパット機能を搭載したシリーズを発売するなど、新たな取り組みにもチャレンジし、また、テレビCMや雑誌タイアップをはじめ、SNS、動画配信等のデジタルマーケティングを組み合わせた販促を強化することで客層拡大を目指してまいりました。更に、一度ご購入頂いた方にもその利便性の高さからリピートして頂く機会が増えたことで大ヒットへと繋がりました。他にも、プライベートブランド「フワラク」では、定番のベーシックシリーズに加え、高屈曲で快適な歩行をサポートするインソールを搭載した「しなやかモカシンシューズ（アクティブシリーズ）」を発売するなど、今期は4シリーズを拡充し、消費者の利便性を追求した、靴専門店ならではの商品提案を推進してまいりました。

販売促進では、「スパットシューズ」のテレビCMを全国放映したほか、降雪地域では、冬の路面にピタッと密着するグラビットソール搭載の、プライベートブランド「セダークレスト」ウィンターブーツのテレビCMを放映し、更に、WEBサイトやSNSを活用して機能性商品の認知度を高めるなど、積極的な新規顧客の獲得に努めてまいりました。加えて、WEB広告を活用して自社ECサイトへの流入を図るなど、デジタル販促を活用したマーケティング活動を推進し、集客力向上に努めてまいりました。また、自社アプリ会員への入会促進を行うとともに、自社アプリ会員向けのポイント増量キャンペーンを実施するなど、既存顧客へのメリットを高め、再来店促進に努めてまいりました。

出退店につきましては、12店舗を出店、17店舗を閉店し、当第3四半期連結会計期間末の店舗数は881店舗（前連結会計年度末比5店舗減）となりました。

経費につきましては、人事効率の改善や管理費の抑制を行いましたが、賃金上昇やインフレ等の影響によって増加が避けられない項目があり、また、売上拡大のため広告宣伝を強化したことにより、販売費及び一般管理費は前年同期比3.8%増となりました。

以上の結果、靴事業の売上高は62,861百万円（前年同期比5.9%増）、営業利益は3,183百万円（同41.1%増）となりました。

<衣料品事業>

衣料品事業におきましては、「暮らしに役立つ商品と企業活動を通じて地域社会に貢献します。」という企業理念のもと、お客様の生活に密着したライフスタイル提案を行いました。

商品面では、重点販売商品をコアアイテムと位置づけ、ベーシックな定番商品を中心に、当社プライベートブランド「NAVY」のアウトターやボトムスの開発を推し進め、店舗での提案強化、プロモーション連動による販売強化を行ってまいりました。また、長引く残暑など、気温や天候の長期的な変動に対応した商品投入を行い、ライフスタイルの変化に合わせた提案ができるよう意識してまいりました。更に、持越し商品の処分を進めると共に、仕入コントロールによるキャッシュアウトの抑制を行い、収益体質の改善に向けた取り組みを推進してまいりました。

出退店につきましては、3店舗を出店、18店舗を閉店し、当第3四半期連結会計期間末の店舗数は263店舗（前連結会計年度末比15店舗減）となりました。

経費につきましては、不採算店舗の閉鎖促進による賃借料の減少や人件費等の抑制により、販売費及び一般管理費は前年同期比12.4%減となりました。

以上の結果、衣料品事業の売上高は9,758百万円（前年同期比16.6%減）、営業損失は804百万円（前年同期は営業損失550百万円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産の状況)

当第3四半期連結会計期間末における当社グループの総資産は、81,113百万円（前連結会計年度末比3,649百万円減）となりました。

流動資産は、53,963百万円（前連結会計年度末比2,373百万円減）となっております。これは、主として現金及び預金が25,149百万円（前連結会計年度末比1,454百万円減）、商品が21,520百万円（同2,376百万円減）、売掛金が5,309百万円（同1,973百万円増）となったことによるものであります。

固定資産は、27,149百万円（前連結会計年度末比1,276百万円減）となっております。これは、主として敷金及び保証金が7,064百万円（前連結会計年度末比2,070百万円減）、繰延税金資産が4,496百万円（同207百万円増）、投資有価証券が2,646百万円（同329百万円増）となったことによるものであります。

(負債の状況)

当第3四半期連結会計期間末における負債合計は、29,622百万円（前連結会計年度末比3,287百万円減）となりました。

流動負債は、19,259百万円（前連結会計年度末比1,008百万円減）となっております。これは、主として電子記録債務が10,872百万円（前連結会計年度末比1,040百万円減）、賞与引当金が95百万円（同331百万円減）、買掛金が3,389百万円（同560百万円増）となったことによるものであります。

固定負債は、10,362百万円（前連結会計年度末比2,278百万円減）となっております。これは、主として退職給付に係る負債が7,538百万円（前連結会計年度末比1,385百万円減）、リース債務が596百万円（同160百万円減）、資産除去債務が1,573百万円（同514百万円減）となったことによるものであります。

(純資産の状況)

当第3四半期連結会計期間末における純資産は、51,490百万円（前連結会計年度末比362百万円減）となりました。これは、主として株式会社マックハウスの連結除外により、非支配株主持分が1,052百万円減少、利益剰余金が43,804百万円（前連結会計年度末比627百万円増）となったことによるものであります。自己資本比率は63.5%（前連結会計年度末比3.6ポイント増）となっております。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2024年11月13日に公表いたしました「子会社の異動を伴う子会社株式の公開買付け応募の結果に関するお知らせ」、ならびに、2024年11月21日に公表いたしました「2025年2月期通期連結・個別業績予想の修正および関係会社株式売却損（特別損失）の計上に関するお知らせ」に記載のとおり、株式会社マックハウスを2024年11月19日付けで連結範囲から除外したことにより、見直しを行っております。

尚、期末配当予想につきましては、変更はございません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年2月29日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	26,604	25,149
売掛金	3,335	5,309
有価証券	—	14
商品	23,897	21,520
返品資産	174	148
その他	2,331	1,829
貸倒引当金	△6	△7
流動資産合計	56,337	53,963
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	1,484	1,341
工具、器具及び備品（純額）	238	224
土地	4,193	4,020
リース資産（純額）	251	225
その他（純額）	7	10
有形固定資産合計	6,175	5,822
無形固定資産	4,846	4,595
投資その他の資産		
投資有価証券	2,316	2,646
敷金及び保証金	9,134	7,064
繰延税金資産	4,289	4,496
その他	1,677	2,523
貸倒引当金	△14	△0
投資その他の資産合計	17,403	16,731
固定資産合計	28,425	27,149
資産合計	84,762	81,113

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年2月29日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年11月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	2,828	3,389
電子記録債務	11,912	10,872
ファクタリング債務	※ 16	—
リース債務	282	258
未払法人税等	615	320
未払消費税等	1,210	127
契約負債	98	71
返品負債	433	367
賞与引当金	427	95
役員賞与引当金	9	3
店舗閉鎖損失引当金	9	—
ポイント引当金	0	0
リース資産減損勘定	9	8
資産除去債務	50	10
その他	2,364	3,734
流動負債合計	20,268	19,259
固定負債		
リース債務	756	596
繰延税金負債	43	9
退職給付に係る負債	8,923	7,538
役員退職慰労引当金	9	14
転貸損失引当金	42	20
長期預り保証金	481	365
長期リース資産減損勘定	18	12
資産除去債務	2,088	1,573
その他	278	231
固定負債合計	12,641	10,362
負債合計	32,909	29,622

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年2月29日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年11月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,893	6,893
資本剰余金	7,489	7,489
利益剰余金	43,176	43,804
自己株式	△6,830	△6,768
株主資本合計	50,729	51,418
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	49	90
繰延ヘッジ損益	24	△10
退職給付に係る調整累計額	△22	△7
その他の包括利益累計額合計	52	71
新株予約権	19	—
非支配株主持分	1,052	—
純資産合計	51,853	51,490
負債純資産合計	84,762	81,113

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年3月1日 至 2023年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年3月1日 至 2024年11月30日)
売上高	71,035	72,620
売上原価	36,992	37,701
売上総利益	34,042	34,918
販売費及び一般管理費	32,329	32,536
営業利益	1,712	2,382
営業外収益		
受取利息	36	72
受取配当金	2	2
受取家賃	473	420
その他	240	143
営業外収益合計	752	638
営業外費用		
支払利息	6	7
不動産賃貸費用	381	322
その他	52	23
営業外費用合計	439	352
経常利益	2,025	2,668
特別利益		
固定資産売却益	1	1
違約金収入	6	—
受取補償金	—	49
負ののれん発生益	※1 288	—
特別利益合計	296	51
特別損失		
固定資産除却損	10	3
関係会社株式売却損	—	※2 406
減損損失	161	112
店舗閉鎖損失	9	6
店舗閉鎖損失引当金繰入額	11	14
リース解約損	10	8
特別損失合計	203	551
税金等調整前四半期純利益	2,118	2,168
法人税、住民税及び事業税	408	496
法人税等調整額	21	△208
法人税等合計	429	287
四半期純利益	1,688	1,880
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△271	△362
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,960	2,243

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年3月1日 至 2023年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年3月1日 至 2024年11月30日)
四半期純利益	1,688	1,880
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	25	40
繰延ヘッジ損益	15	△35
退職給付に係る調整額	△1	25
その他の包括利益合計	39	30
四半期包括利益	1,727	1,911
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,998	2,262
非支配株主に係る四半期包括利益	△270	△351

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(四半期連結貸借対照表に関する注記)

※ ファクタリング債務

前連結会計年度(2024年2月29日)

連結子会社(株)マックハウスのファクタリング債務であります。

(四半期連結損益計算書に関する注記)

※1 負ののれん発生益

前第3四半期連結累計期間(自 2023年3月1日 至 2023年11月30日)

トモエ商事株式会社を子会社化したことに伴い、負ののれん発生益288百万円を特別利益に計上しております。

※2 関係会社株式売却損

当第3四半期連結累計期間(自 2024年3月1日 至 2024年11月30日)

連結子会社であった株式会社マックハウスの普通株式の全部を譲渡したことに伴い、関係会社株式売却損406百万円を特別損失に計上しております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年3月1日 至 2023年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年3月1日 至 2024年11月30日)
減価償却費	616百万円	592百万円

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2023年3月1日 至 2023年11月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	靴事業	衣料品事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	59,337	11,698	71,035	—	71,035
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	59,337	11,698	71,035	—	71,035
セグメント利益又は損失 (△)	2,256	△550	1,706	6	1,712

- (注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額は、セグメント間取引消去によるものであります。
2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。
3. 当社グループの売上高は、すべて顧客との契約から認識した収益です。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「靴事業」及び「衣料品事業」セグメントにおいて、継続的に営業損失を計上している資産グループ及び共用資産並びに市場価格が著しく下落している資産グループにつきまして、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、「靴事業」100百万円、「衣料品事業」60百万円を減損損失として特別損失に計上しております。

(重要な負ののれん発生益)

「靴事業」セグメントにおいて、前第3四半期連結会計期間よりトモエ商事株式会社の株式取得による連結子会社化に伴い、負ののれんが発生しております。当該事象による負ののれん発生益の計上額は288百万円であります。なお、負ののれん発生益は特別利益のため、上記セグメント利益には含まれておりません。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2024年3月1日 至 2024年11月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	靴事業	衣料品事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	62,861	9,758	72,620	—	72,620
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	62,861	9,758	72,620	—	72,620
セグメント利益又は損失 (△)	3,183	△804	2,378	4	2,382

- (注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額は、セグメント間取引消去によるものであります。
2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。
3. 当社グループの売上高は、すべて顧客との契約から認識した収益です。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「靴事業」及び「衣料品事業」セグメントにおいて、継続的に営業損失を計上している資産グループ及び共用資産並びに市場価格が著しく下落している資産グループにつきまして、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、「靴事業」51百万円、「衣料品事業」60百万円を減損損失として特別損失に計上しております。

(企業結合等関係)

(子会社株式の譲渡)

当社は、2024年10月11日開催の取締役会において、G Future Fund 1号投資事業有限責任組合（以下、「G Future Fund 1号」）との間で、G Future Fund 1号が実施する当社の連結子会社である株式会社マックハウス（以下、「マックハウス」）の普通株式に対する公開買付け（以下、「本公開買付け」）に関して、本公開買付けに対して当社が保有するマックハウスの普通株式の全部を応募する旨の公開買付け応募契約（以下、「本応募契約」）を締結することを決議し、同日付で本応募契約を締結いたしました。そして、2024年11月12日に本公開買付けが成立し、2024年11月19日に本公開買付けの決済が行われたことに伴い、当第3四半期連結会計期間末よりマックハウスを当社の連結範囲から除外しております。

1. 株式譲渡の概要

(1) 株式譲渡先企業の名称

G Future Fund 1号投資事業有限責任組合

(2) 株式譲渡した子会社の名称及び事業の内容

名 称 株式会社マックハウス

事業内容 衣料品事業

(3) 株式譲渡を行った主な理由

マックハウスは減収減益が続き、直近6期（2019年2月期～2024年2月期）において営業赤字を計上し、抜本的な業務再構築が必要となっております。G Future Fund 1号の出資持分の過半数を有する出資者のジーエフホールディングスは、グループに中国を中心とする53カ所のアジア地域における検品拠点、国内の43カ所の物流拠点を所有し、マックハウスが利用することによる物流効率向上及びコスト削減が期待できます。

また、複数のアパレルブランドを所有しており、展開ブランド、マーチャンダイジングの再構築による収益性向上が期待できます。

マックハウスの業績回復及び企業価値向上は、当社グループより、ジーエフホールディングスグループにおいてなされるべきものと判断しました。上記の理由も含め、内容について検討の結果、買付価格等の条件が妥当であると判断できること、マックハウスの取締役会が賛同の意を表明していること等から、株式譲渡を行うことを決定いたしました。

(4) 株式譲渡日

2024年11月19日（株式譲渡日）

2024年11月30日（みなし譲渡日）

(5) 法的形式を含むその他取引の概要に関する事項

受取対価を現金等の財産のみとする株式譲渡

2. 実施した会計処理の概要

(1) 譲渡損益の金額

関係会社株式売却損 406百万円

(2) 譲渡した子会社に係る資産及び負債の適正な帳簿価額並びにその主な内訳

流動資産	5,530百万円
固定資産	2,413
資産合計	7,943
流動負債	3,112
固定負債	3,047
負債合計	6,159

(3) 会計処理

マックハウスの連結上の帳簿価額と譲渡価額との差額を特別損失の「関係会社株式売却損」に計上しております。

3. 譲渡した子会社が含まれていた報告セグメント

衣料品事業

4. 四半期連結累計期間に係る四半期連結損益計算書に計上されている株式譲渡した子会社に係る損益の概算額

売上高	9,758百万円
営業損失	△804百万円

3. 補足情報

2025年2月期第3四半期の個別業績（2024年3月1日～2024年11月30日）

（1）個別経営成績（累計）

（％表示は対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％
2025年2月期第3四半期	61,519	4.3	3,182	72.6	3,454	62.9	2,331	32.9
2024年2月期第3四半期	58,970	6.5	1,843	—	2,120	—	1,753	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2025年2月期第3四半期	66.27	66.26
2024年2月期第3四半期	49.91	49.76

（2）個別財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	％
2025年2月期第3四半期	78,801	50,205	63.7
2024年2月期	74,993	48,911	65.2

（注）四半期個別財務諸表は、法定開示におけるレビュー対象ではありません。